

棟花^{ていか}
(にわざくら、にわうめ)
安蔵先生の雅号です



安蔵
つうしん

No.24 「鈴木安蔵を講べる会」ニュース

発行：2024(令和6)年8月9日(金)長崎原爆投下の日
〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21
〔鈴木安蔵を講べる会〕会長 志賀勝明
TEL/FAX 0244-26-4523 携帯 090-3532-5524

8月7日棟花忌、「鈴木安蔵先生を語る会」を開催

参加者は60名 “人間鈴木安蔵”も学んで好評でした

○今年2024年は鈴木安蔵先生の生誕(1904・明治37年3月3日)から120周年を数えます。その記念事業として命日(1983・昭和58年)8月7日(水)に、本会主催・南相馬市教育委員会共催で、小高区浮舟文化会館を会場に「鈴木安蔵先生を語る会」を開催しました。



○午後1時に始まり、4名のパネラーの発表が約2時間、休憩後に会場から質問や意見が出され4時に終了。○参加者は浜松市、東京や神奈川、宮城など全国各地から60名でした。

◀各パネラーからは異なる安蔵像が

パネラーの発表要旨 司会：寺田亮氏(埴谷・島尾記念文学資料館主査)

①金子勝氏(立正大学名誉教授)『なぜ今、鈴木安蔵先生か、理想と憲法』



「鈴木安蔵先生は世界初の憲法科学を樹立し、日本国憲法の間接的起草者となった。支配・搾取・差別される人民を解放し幸福にしたいと考えた。岸田文雄内閣は核侵略戦争をする米国の相棒国となることを決めたが、鈴木先生から学んでほしい」

②今野順夫氏(元福島大学学長・福島県九条の会代表)『鈴木安蔵から学んだこと』



「護憲の県九条の会などの活動で、押し付け憲法論への対抗のため憲法研究会や鈴木安蔵起草の憲法草案に再び注目して学習を深め、鈴木安蔵のかつての闘いは平和や人権運動の支えだ。県民にとって「福島県の二人の鈴木(安蔵と義男)」は大きな誇りです」

③佐藤洋子氏(詩人)『鈴木安蔵「亡き父」と呼んだ父の影』



「父鈴木良雄(餘生)の死去の20日後に安蔵が誕生し、“人間のどうしようもない哀しみ”を無意識の底に抱えることになる。父の辞世の壮絶な句「鉢叩く地獄の道の寒からむ」などを知り、やがて歌を詠むのは亡父の影が常にあったからではないだろうか」

④戸田舜樹氏(筑波大学院生)『鈴木安蔵研究の過去と現在、そして未来』



「鈴木は科学的憲法学とマルクス主義憲法学の第一人者。立正大や愛知大には膨大な資料が残されていて整理が急がれる。安蔵は自由民権運動から「民衆の力」を学んだ。私たちと同じく迷い悩んだ等身大の人間としての鈴木安蔵の魅力も伝えたい」

○パネラー4名のレジメをご希望の方は事務局山崎へ連絡をください。